耕作放棄地再生利用緊急対策交付金　実証ほ場　コウゾ調査結果

●平成24年度結果

1　最長新梢長（単位：cm）

系統名	7月23日	10月3日	11月3日
吉北系	93.7	144.3	162.4
福西系	72.4	134.3	142.8

2　茎径（単位：mm）

系統名	10月3日	11月3日
吉北系	10.7	12.1
福西系	11	11.8

《調査項目》
①最長新梢長　　各株で最も長く伸びている新梢の長さを調査
②茎径　　最長新梢長を測定した新梢の太さ（直径）を調査

《調査結果》
・吉北系統の方が、新梢の長さ、太さともに勝っていた。

●平成25年度結果

1　最長新梢長（単位：cm）

系統名	6月15日	7月22日	8月18日	10月5日	11月4日
福西系	81.1	123.7	180.6	231.9	231.1
吉北系	52.5	92.7	122.5	148.6	146.7

2　最大茎径（単位；mm）

系統名	6月15日	7月22日	8月18日	10月5日	11月4日
福西系	6.6	11.1	12.9	15.8	16.4
吉北系	5.2	7.6	9.8	11.1	11.8

3　枝数（単位：本）

系統名	6月15日
福西系	12
吉北系	16.6

4　収穫調査

系統名	株あたり重量（g）	株あたり収穫本数（本）	1本あたり重量（g）
福西系	499	8	62.4
吉北系	225	10.8	20.8

《調査項目》
①枝数　各株ごとに今年発生した新梢の本数を調査
②最大新梢長　各株で最も長く伸びている新梢の長さを調査
③最大茎径　最大新梢長を測定した新梢の太さ（直径）を調査
④収穫調査　収穫日：12月23日（落葉後）　各株ごとに今年発生した全ての新梢を収穫
収穫した新梢ごとに重量を測定

《調査結果》
・福西系の方が、新梢の長さ、太さともに勝っていた。
・新梢本数については、福西系の方が少なかったが、株あたり10本以上の発生が見られた。
・株あたり重量、1本あたり重量ともに、福西系の方が明らかに勝っていた。
収穫可能な新梢数は、吉北系の方が多かったが、細いものが目立った。
福西系では、極端に細い新梢はほぼ見られなかった。
・なお、昨年度は吉北系の生育が勝っていたが、これは福西系が昨年度は定植1年目であった影響と考えられる。

《その他》
・従来からコウゾ栽培において問題となる病害虫の発生はないと考えられてきた。
今回の実証圃において確認したところ、鱗翅目害虫によると思われる葉の食害、並びにヨコバイ類によると思われる葉の吸汁痕が認められたが、ともに新梢の伸長に影響があるものではなかった。
・但し、今回の結果を受けて、吉野町内に従来からあるコウゾ圃場を巡回したところ、1カ所でヨコバイ類の多発圃場があり、しかもヨコバイ類の媒介によると思われるウィルス病様症状の発生があり、落葉や新梢の伸長不良が確認されている。